

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1(小・中)

学校名	みやき町立中原中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、おおむね好意的な評価を得ている。</li> <li>校内研修を中心に、「グループ活動を軸とした問題解決的な学習活動」を仕組みた授業実践を積み重ねるなど、重点目標達成に向けた教育実践を行うことができた。</li> <li>次年度も継続して授業改善や開発的生徒指導、道徳教育の充実にも職員で取り組みたい。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>ふるさと中原を担う生徒の育成 ～自律と共同を通して～</p>

3 本年度の重点目標	<p>① 開発的生徒指導の推進      ② 夢（志）、目標をもたせる      ③ 道徳教育の充実 ④ 学力向上のための取組継続      ⑤ ふるさと中原に対し愛着をもたせる</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

重点取組項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容		達成指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策委員会に示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	「教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	A	「校内研究会において指導案検討を行った上で、全教員による研究授業を達成した。授業後にはマッピング付箋法による振り返りを行い、共通理解と共通実践を図っている。	A	「アンケート調査において、マイプランの成果指標を達成できたと回答をした教員は90%。 「校内研究会の研究部会において、課題の共有を図るとともに、日々の授業についても、中席4ステップを意識した授業を組み立て、学力の向上に向けて共通実践を行うことができた。	A	「授業を見ても、大変落ち着いたように感じた。」 「継続して取り組んで欲しい。」	佐保井(校内研究)
	●思考力・判断力・表現力を育成する指導方法の工夫と授業の実践	○12月の県学習状況調査の思考力・判断力・表現力を問う期間において、県平均を上回る生徒50%以上	「校内研究会での授業実践を、自らの日々の授業に生かす。 「思考力を育成するために、グループ活動を軸とした課題解決的な授業を実施する。	A	「学習過程を統一し、思考力・判断力・表現力を育成するための思考スキルを意識した授業展開を、全教員で共通実践している。	A	「アンケート調査において、思考力・判断力・表現力を育成するために指導方法を工夫している」と回答をした教員は95%。 「主体的に授業に取り組み、学力の向上につなげている」と肯定的に回答をした生徒は99%。 「12月の県学習状況調査の思考力・判断力・表現力を問う期間において、ほとんどの設問で生徒の50%以上が県平均を上回った。	A	「特に中学1年生の伸びの速さをうれしく思う。」 「継続して取り組んで欲しい。」	佐保井(学力向上)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」と回答した生徒80%以上 ○道徳の授業で「自分の意思を伝えることができる」等、道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上	「年度初めに全クラスでいじめに関する道徳・学活の授業に取り組む。 「人権週間(11月)から、生かす考える日」では、生徒主体の取組も生かす。人権意識を高める。 「OUの結果をもとに個別の支援を行い、学級満足度のポイントを上げる。	A	「いじめアンケートについて、90%以上の生徒・保護者が「ない」と回答していた。また、あると回答していた者に対しては、スピーディーに即対応をした。 「担任がクラスの様子から気づきや伝えたいことを見極め、道徳の授業に生かしている。 「12月の学校開放デーで、保護者や地域の方が参観したふれあい道徳を実施する予定。 「12月に「ネットで」の講師中席」をテーマに講師を招き、人権集会を実施する予定。	A	「アンケート調査において、「いじめ・差別・暴力のない学校」の項目で肯定的な回答をした生徒は78%。わずかに目標の80%には届かなかった。 「友だちに思いやり的心をもっているか」の項目について肯定的な回答をした生徒は94%。 「12月に保護者参観のふれあい道徳を行った。1年生はSNS上のルール、2年生は時間を守ることの大切さ、3年生は、自主・自立、自由と責任について考えさせることができた。 「道徳の授業を中核に、各教科の授業において、今後も引き続き心の教育を行っていく必要がある。	A	「登下校時に見守りを行っているが、あいさつをよくするなど、優しい子どもが多い。」 「継続して取り組んで欲しい。」	西園(道徳教育) 横尾(人権教育)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」になることを目指して指導している」と回答した教員90%以上 ○アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上	「学年経営・学級経営を通して、いじめを発生させない学習気づけに努める。 「道徳の授業を通して、道徳性を育成する。 「学校行事や生徒会活動で生徒が主体的に取り組む場を用意し「役割・出番」「承認」「成長」という3つのキーワードを確立することにより、生徒に達成感・成就感、自己肯定感をさせる。	B	「毎月末に生活アンケートを実施し、いじめの早期発見に努めている。また、あると回答している者は、即日「いじめ対策委員会」を立ち上げ、指導の方針を決めている。これまでに「生徒に「役割・出番」を与える」「承認」すること意識した指導を行っている」など、多くの行事が中止となる中で、生徒の出席を多くづくり自己肯定感を高める取組を工夫している。	A	「アンケート調査において、「いじめ・差別・暴力のない学校」になることを目指して指導している」と回答をした教員は全教員100%であった。 「アンケート調査において「生徒に「役割・出番」を与える」「承認」することを意識した指導を行っている」と回答をした教員は全教員100%であった。	A	「いじめ等に職員全員で、早期発見、早期対応に取り組んでいると感じる。」 「継続して取り組んで欲しい。」	上田(生徒指導) 石戸(教育相談)
●健康・体づくり	○自らの夢や目標に向けて努力する気持ちをもつことを高める教育活動の推進	○「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と回答する生徒70%以上 ○「自中中学校や地域が好きだ」と回答する生徒70%以上	「学級活動や総合的な学習の時間 등에서、生徒に夢や目標について自ら考えさせる場を設定する。 「全校集会や学校便りでは、自中中学校や地域の歴史等を生徒に伝える。	A	「各学年や行事ごとに目標を持たせたり、総合や学活の時間を通して、進路について考えさせたりすることで自らの夢や目標に向けて努力させることを意識させることができた。 「生徒会活動を通して、地域に貢献するなど地域を大切にすることを心がけている。 「各学年各クラスにおいて学級活動や総合的な学習の時間を通して、生徒に夢や目標について自ら考えさせている進路の指導がある。 「学校が発行する学校便りでは、自中中学校や地域の歴史について伝えることができた。	A	「アンケート調査において、「自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがある」と回答をした生徒は84%。 「自中中学校や地域が好きだ」と回答をした生徒は85%。 「職業の夢や目標の実現に向け、日々の学習や部活動などに積極的に取り組むことができた。 「職業調べや高校調べなどの進路学習や関連させながら、各学級において夢や目標についての大切さ、努力の重要性について話することができた。 「各学年各学級において学級活動や総合的な学習の時間を通して、自らの進路について考えさせ、夢や目標を持たせることができた。	A	「地域を好きな子どもが多くて、うれしく思う。心優しい子どもが多いように感じる。」 「継続して取り組んで欲しい。」	横尾(学級活動) 石戸(総合的な学習) 小林(教務)
	●望ましい生活習慣の形成	●「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、生徒・保護者ともに達成率80%以上 ●朝食後の歯みがきの励みを呼びかけ、生徒の達成率80%以上	「集会等で「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について保健指導を行う。 「保健便りや掲示物等で啓発する。 「保護者参観や生活習慣が乱れている生徒に個別に保健指導を行う。 「生徒会で食後の歯みがきを呼びかける。 「歯科衛生士による歯みがき講話を行う。	A	「感染症予防に向けて、養護教諭からのきめ細かい指導を行っている。 「緊急時のあるなどについては、学校医の指導を仰ぎながら、全職員で共通理解を図り、即時対応している。 「時事の話題を取り上げた保健便りや掲示物等で啓発している。	A	「アンケート調査において、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていると回答した割合は、生徒、保護者ともに80%。 「集会で養護教諭から「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性について保健指導を行い、保健便りや掲示物で啓発した。 「生徒会(健康委員会)からの啓発を合わせて行った。 「個別の保健指導を行い、担任や保護者と連携して改善に向けて取り組んだ。	A	「3日に朝食を食べるためのには、学校だけでなく、ご家庭の協力が必要となっている。」 「継続して取り組んでほしい。」	石戸(健康安全)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する	「週1回、定時退勤日を設定する。 「夏季休業中及び冬季休業中に学校閉庁日を設定する。 「週2回、部活動休日を設定する。	B	「週1回の定時退勤日、週2回の部活動休業日はそれぞれに設定した。 「学校閉庁日を夏季休業中に5日、設定した。冬季休業中は6日設定する予定。 「定時退勤については、部活動の休みの日が各都で違うことで全体の取組みという意識が薄く、実行率は低かった。	B	「週1回の定時退勤日、週2回の部活動休業日はそれぞれに設定した。 「学校閉庁日を夏季休業中に5日、設定した。冬季休業中は6日設定した。 「定時退勤については、部活動の休みの日が各都で違うことで全体の取組みという意識が薄く、実行率は低かった。 「定時退勤の実施にむけて本年度の部活動休業日の見直しを図った。	B	「業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減に向けた取り組みには評価をしていないように思う。」 「来年度の課題として、継続して取り組んでほしい。」	小林(教務) 教頭
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○各分掌の業務が組織的に分担して運行できていると回答する教職員70%以上 ○教職員の時間外勤務について前年度より10%削減	「各分掌の業務を主任(チーム)に任せ、分掌メンバーで分担して運行するよう呼びかける。 「各教職員の時間外勤務を把握し、時間外勤務が多い教職員を面談して、原因と解決方法を探る。	B	「分掌による、業務の分担が図られているものと、チームに過剰に偏っているものがある。 「時間外勤務が多い教職員についての把握はできているが、解決方法を見出すには至っていない。	A	「各分掌の業務が組織的に分担して運行できている」と回答した教職員は80%。 「教職員の時間外勤務については、前年度月平均6.4、4時間を今年度月平均3.6、2時間と44%削減した。 「学期ごとに衛生管理委員会を開き、時間外勤務が多い教職員についての把握し、業務改善の取組も行った。	A	「はっきりと数値として表れていることに驚いた。」 「継続して取り組んでほしい。」	教頭

重点取組項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容		達成指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	
○生徒指導・教育相談体制の充実	○教育活動の中で、開発的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている」と回答した教員80%以上 ○生徒の情報交換・自己発現に向け、年2回の教育相談の実施 ○生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、生徒指導協議会(月1回)の実施	「節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」「承認」「成長」という3つのキーワードを教育活動全体で実践する。 「年2回の教育相談を実施するとともに、気軽に相談できる環境づくりを努め、不登校や不登校を誘った生徒の早期発見に努める。SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 「生徒指導委員会を組織し、SCやSSWにも参加してもらい、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。	「8月に職員全員でOUの分析を行い、学年ごとに個別の支援の在り方や方針について話し合った。 「6月と10月に主任を主とした教育相談を実施した。 「不登校傾向のある生徒には、定期的な家庭訪問を行うなど関係づくりやSCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応している。 「毎週生徒指導委員会を開催し、SSWにも参加依頼している。 「生徒の情報交換を密にするため、全教員参加で生徒指導協議会を月1回の実施している。	A	「アンケート調査において、「いじめ防止等について組織的に対応ができている」と回答した教員は90%。 「生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行ったと肯定的に回答をした教員は100%。感染症対策に工夫を凝らしながら、生徒の出番を確保し、自己発現を促す取組も行うことができた。 「いじめ・差別・暴力のない学校だと思います」という項目に肯定的に回答した生徒は78%。組織的な対応の成果であると考え、年2回の特別支援教育に関する研修を実施することができた。 「不登校や心理的なストレスを抱えている生徒について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、町教育委員会、フリースクール、病院等、関係機関と積極的に情報共有しあがり、連携した支援にあつた。 「1、2年生の特別支援学級在籍生(自閉児・情緒学級)7名および3年生の難読学級在籍生1名については、巡回相談を実施した。	A	「役割・出番・承認」を意識しながら、事後対応的な生徒指導ではなく、予防的早期対応に重点をおいた指導でもらっていることと感謝する。」 「継続して取り組んでほしい。」	上田(生徒指導) 石戸(教育相談) 待島(特別支援教育C)		

●…共通理解 ○…学校独自 ◎…進を高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月に学校評価アンケートを実施した。保護者及び生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、おおむね好意的な評価を得ることができた。</li> <li>校内研究を中心として、思考力・判断力・表現力を育成する指導方法の工夫と中原ASTEPを意識した授業を組み立てるなど、重点目標達成に向けた共通した教育実践を行うことができた。</li> <li>教職員の働き方改革の推進のため、衛生管理委員会等を活用し業務の見直しを図ったところである。</li> <li>次年度も継続して授業改善や開発的生徒指導、道徳教育の充実、また働き方改革にも職員で取り組みたい。</li> </ul>
-------------------------	---